

(第3種郵便物認可)

いと立ち募らせ
一家は一六年二月、心ち
やんが二歳のころに県内の
別の自治体から伊奈町に
転居。心ちやんと両親、兄
との四人暮らしで父親は
営の空調設備業が忙しく、
家事と育児はパートの母親
が中心だった。トイレトレ
ーニングがうまくいかず、

岩井心ちゃん死亡事件の主な経緯

2016年2月	岩井一家が伊奈町に転居
7月21日	住民から町に「雨の中、子どももか1人で外にいる」と通報。町職員が赤ちゃんの体にあざを確認。母親は「便秘症でトイレがうまくできず、謝らない」と説明。職員は「外に出すのは虐待に当たる」と子育てに困ったら役場に相談に来れるよう伝える
22日	児童手当の手続きで役場を訪れた母親が「トイレができないので、たたくこともある」と漏らす。町職員は「しつけでも、たたくことは虐待に当たる」と説明
8月10日	町職員が自宅を訪問。赤ちゃんの目尻に引っかき傷があり、母親は「あせもをかいた」と説明。職員は「あせもののために髪を束ねるとよい」「便秘には乳製品がよい」とアドバイス。母親が「ストレスや疲れがある」と漏らし、職員は子育て支援センターの利用を勧める
17年2月7日	赤ちゃんの3歳時健診。健康状態に問題なしとの結果
10月下旬	赤ちゃんがご飯を食べなくなる
12月21日	赤ちゃんが体調を崩し、病院で死亡。病院が県警に通報。両親は、その後の事情聴取で暴行を認める
20年3月6日	県警が保護責任者遺棄致死の疑いで両親を逮捕

※県警や伊奈町への取材を基に作成

捜査関係者によると、一
七七年十二月二十一日夕、心
ちゃんは入浴後に貞合が悪
くなり、母親が連れて行つ
た病院で死亡が確認され
た。全身に數十カ所のあざ
があり、脚の付け根の筋肉
は断裂していた。両親は
逮捕前の聴取時から暴行を
認め、「しつけのため」と説
明していた。母親は食事を
与えていたが、「死ぬ数日前
は、一口ほどしか食べなくな
った」という。
両親の携帯電話からは、
心ちゃんが足をひきすつて
で、腕やお尻にあざがあつ
せるな」と暴行に加わるよ
うになったとみている。
町は、心ちゃんをたたく
母親が次第にいら立ちを募
らせ、父親も「母親を怒ら
前から把握していた。一六
年七月、「雨の中、女の子
が一人で立っている」と近
隣住民が町人権推進課に通
報。同課と子育て支援課の
職員が向かうと、心ちゃん
はTシャツ一枚の半裸姿
で、腕やお尻にあざがあつ

いよ」と伝え、相談がされた。
ば役場に来るよう告げた。
翌日、「児童手当の手続き
に役場を訪れた母親は兄
と比べて物覚えが悪い」
「たたくこともある」と打
ち明けた。職員が再度、た
たくことは虐待に当たると
説明すると、素直に聞き入
れる様子だったといふ。

專門家 母親SOS

洋准教なかつではな接した業務にを促し「とえてい」と指摘「トイしてしな園に預てよ」走でき連携をしてい

母の立場に立って、母親が抱いていたことが一番の論理的立場だといふ」とし、「母親が抱いていたSOSに寄り添うことが問題だ」といふ。母親の立場に立つて、母親が抱いていたSOSに寄り添うことが問題だ。母親の立場に立つて、母親が抱いていたSOSに寄り添うことが問題だ。

News

伊奈町4歳児死亡で両親逮捕

伊奈町で2017年12月、当時4歳の岩井心ちゃんが死亡し、母親の真純(28)、父親の悠樹(30)の両容疑者が県警に保護責任者遺棄致死容疑で逮捕された事件。町は体のあざなど虐待の兆候を把握していくながら、母親への指導後はあざがなかったため、支援を打ち切っていた。事件の背景には育児ストレスがあったとみられ、専門家は「指導では、保護者のSOSに寄り添えない」と指摘している。
(浅野有紀、李雅難、前田明子)



心をやんの両親に仕事同行を求める県警の捜査員＝6日、伊奈町で

専門家 母親SOS 縦割り行政の死角に

あさは確認されず、心から子を見て、職員は「二時に暴行しただけ」と判断し、児童相談所や県警に通報せず、子育て支援センターを紹介して支援を終えた。

町は一八年度から、虐待が疑われる通報を受けた場合、児相や警察も入る要件で児童対策地域協議会に事件情報共有する方針に変ったが、事件前はこの仕組みではなかった。町の担当者は「当時、できることは「た」と説明。今後は専門を入れた会議で、保護者応を検証する。

千葉県野田市の虐待事例などの検査委員を務める本部・吉澤理恵部長は、「

幅広い希望に応える
総合印刷会社

県内の天気

さいたま		
熊谷		
秩父		
きょうの予想 (さいたま)		
降水確率		
朝0% 昼0% 晩0%		
気温		
最高10度 最低0度		